

物理学会のほどよいサイズは？ ——会長就任にあたり

長谷川修司 〈会長 shuji@surface.phys.s.u-tokyo.ac.jp〉

このたび、第79期の会長に選任され、その重責に身の引き締まる思いです。先人たちが築いてきた伝統の上に立ち、皆さまのご協力を得て学会をますます盛り上げるべく微力を尽くして参る覚悟です。

本会の会員総数は、1999年の約19,100名をピークに、その後減少を続け、現在では約15,300名となっています。この20年あまりで約20%も減少し、しかも下げ止まりの兆候は見えません。一方、政府の教育未来創造会議の資料¹⁾によると、大学入学者総数が増加しているにもかかわらず、2000年には12.8万人だった理・工学部入学者が、2020年には10.8万人にまで減少しており、その減少率は本会会員数のそれと同程度になっています。学術界での我が国の国際的地盤沈下が騒がれていますが、本会だけでなく、日本全体のアカデミアのサイズ縮小の現状を見れば、地盤沈下も当然と言えそうです。

そのためか、昨秋、政府が、大学理系入学者数の割合を現在の約35%（理・工・農・保健の合計）から今後10年間で50%にまで引き上げるといふ目標を掲げたとの報道がありました。また、今年の大学入試においては、理系志望者の割合が増加し、特に女子生徒の理・工学部志望が増えたとの報道もありましたので、少しばかりの明るい兆しが見え始めました。研究費の増額だけでなく、科学技術を担う人材を増やすことの重要性は論を俟ちません。こうした世の中の流れのなかで、本会を少しでもさらに活性化させるために、下記のようなことができないか考えています。

まず、物理学のフロンティアを広げる努力をしたい。今、データ科学や人工知能、量子計算が、従来の計算物理

の枠を超えてさまざまな分野で急速に展開されつつあります。本会にその動きをしっかりと取り込みたい。それぞれの分野、領域で点在するそれらのトピックスを集めて横のつながりを作り、さらには産業界や一般市民、高校生・大学生にも見える形にして、物理学のダイナミズムを示すことができるのではないかと考えています。また、もっと広く高校生や大学前期程度の若者たちにしっかりと顔が向いている学会だというアピールができないかと考えています。私が学生時代に重宝した物理学の論文選集は廃止されて久しいですが、各専門分野への新規参入者たちに役立つ入門的な書籍の出版は学会の役目かもしれません。また、理科好きの一般市民や高校生を受け入れる「会友」制度が本会には存在しますが、知名度がないせいか、現在は約200名程度しか登録されていません。会友にとって魅力的なコンテンツを増やして会友を格段に増やし、将来会員になってくれる若手や物理学のシンパを増やしたいと夢見ています。コロナ禍を機に始まったオンライン物理講話は会友・会員に好評を得ており、さらに昨年、会員が行ったプレスリリースのまとめサイト²⁾を本会ホームページ上に新設して、会友メルマガで配信することを始めました。また、YouTubeなども活用して各会員が行っているアウトリーチ活動と協同することも考えられます。会員の皆様のお知恵を拝借できれば幸いです。

さらに、学生会員や若手研究者たちにとって、研究交流だけでなく就職活動やキャリアパスなどの情報交換の場を作ることも重要と考えています。年2回の年会・大会での交流は貴重な機

会ですが、オンライン大会が増えた現状では、違った形での交流の場が若手に必要だという声をよく聞きます。若手や学生会員たちは、シニアの会員が想像するよりも深刻にコロナ禍の影響を受けているようで、若者の孤立化の傾向が強まっているとの話も聞きます。若手・学生会員の相互交流のプラットフォームづくりを本会がお手伝いできる仕組みを検討したいと思っています。

上述の今年の大学入試の動向をみると、理系進学志望の女子生徒が増えるようです。一方、従前から活動してきた本会の男女共同参画推進委員会を、ダイバーシティ推進委員会と改称することになり、ジェンダーギャップの問題だけでなく、留学生や外国人研究者に対してもっと目配りする形ができないか検討したいと考えています。日本語ができない会員にも満足してもらえる学会、母国に帰国してからも本会の会員を継続したいと思える学会にするにはどうしたらいいのか。そのためには、大会・年会の英語化が必要という議論になりがちですが、一気に一般講演まで英語化するのは無理かもしれません。しかし、せめてシンポジウムだけでも英語化を推進できたらと考えています。とくに、オンライン大会のときには、(旅費がかかりませんので)積極的に海外からのスピーカーを招待して英語化を加速できるのではないかと期待しています。会員の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

参考文献

- 1) 第2回会議配布資料 <https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/dai2/siryous.pdf> の13ページ。
- 2) https://www.jps.or.jp/keijiban/keijiban_press.php

(2023年1月15日原稿受付)